

## 基本理念

### 目的（存在理由）

#### 社会への貢献

わたしたちは  
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、  
よって社会に貢献することを目的とします。

### 基本的価値観（不変の主義）

#### 1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、  
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

#### 2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、  
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

#### 3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々\*に対し、  
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

\*「わたしたちを支える人々」とはステークホルダー  
（お客様、サプライヤー、株主・投資家、従業員とその家族など）を指します。

## 株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに第41期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）  
年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

2008年秋に発生した世界同時不況・金融危機からの回復は、中国などのアジアの新興国主導といった側面が強く、世界経済は、これまでの米国一極集中から、多極化の時代へと向かいつつあります。中国、インドなどの新興国が次世代リーダーとして存在感を高める一方、日本経済は、緩やかな回復基調に向かっていますが、依然として、厳しい局面にあります。

そのような中、建設投資は依然厳しい状況であり、先の政権交代による公共投資の大幅削減など、先行きは

不透明であります。このような変化の時代には、これまでの固定概念から脱却し、迅速かつ柔軟な対応が企業においても求められていると考えます。

必要な時に必要なスペースを必要な設備とともに提供する——当社のユニットハウスのレンタルシステムは、変化のスピードが加速する社会において必要とされるビジネスモデルであると確信しております。

今後も創業当時から受け継がれてきたフロンティアスピリッツ（開拓の精神）を原点に、困難に直面したときこそが成長のチャンスであると捉え、鋭意努力を重ねてまいります。

### 当事業年度（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の業績について

ユニットハウス事業のレンタルについては、建設着工高は依然回復せず、建設現場向けの仮設ユニットハウスのレンタル受注は減少したため、総じて厳しい状況となりました。その結果、ユニットハウス事業の売上高は14,428百万円（前年同期比12.9%減）となりました。

当期は建設現場向けの仮設レンタル需要以外に、新たに期間限定で空間を使用するニーズに着目し、イベント業や不動産業など新たな顧客の開拓に努めました。また、従来から推進しているトランクルームの出店を強化しました。

ユニットハウスの販売においては、中古ハウスを中心

とした販売チャネルの拡充に努め、展示販売場を10店舗出店しました。また、新たな試みとして、建機リース会社などの代理店やホームセンター等と提携し、200ヶ所以上の展示場に当社ハウスを展示し、販売売上の拡大を図りました。

立体駐車装置事業におきましては、当事業年度売上高は488百万円（前年同期比35.8%増）となりました。

上記の結果、当事業年度売上高は14,916百万円（前年同期比11.9%減）となりました。利益面においては、全社的に諸経費の削減に取り組みましたが、営業利益567百万円（前年同期比57.4%減）、経常利益506百万円（前年同期比59.8%減）、当期純利益209百万円（前年同期比69.0%減）となりました。

今後ともリサイクルが可能なユニットハウスの特長を活かして、期間限定で空間を必要とするニーズを開拓していくことと、さらなる販売チャネルの拡充に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成22年6月

代表取締役社長 **長妻貴嗣**